

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：『減災の科学を豊かに—多様性・ジェンダーの視点から』
  - 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
    - ・主催：日本学術会議東日本大震災復興支援委員会産業振興・就業支援分科会  
第 18 回 ISA 社会学世界会議（横浜会議）災害社会学部会・分科会「ジェンダーの視点は災害研究に何をもたらすか」  
平成 25—27 年度文部科学省科学研究費補助金基盤（A）「社会的脆弱性／レジリエンスの比較ジェンダー分析」（研究代表者：大沢真理、東京大学社会科学研究所教授）
    - ・後援：一般社団法人・生活経済政策研究所
  - 3 開催日時：平成 26 年 7 月 20 日（日） 13 時 00 分～16 時 45 分
  - 4 開催場所：日本学術会議 講堂
  - 5 開催趣旨：

災害の被害や復興において個人や集団の間に大きな差異を生み出す多様な要因（ジェンダー、セクシュアリティ、年齢、障害や病気の有無・種類、国籍・母語、働き方や家族形態、ケア責任の有無・程度、地域の社会的ネットワークなど）が、災害諸科学に組み込まれることにより、社会的な脆弱性の克服やレジリエンスの構築に関する学術研究が進展することを目的に開催された。
  - 6 参加人数：

講演者等：7 名（ほか、司会 2 名、開催挨拶 1 名、趣旨説明 1 名）  
その他の参加者：約 80 名
  - 7 特記事項：
    - ①メディアによる取材・報道等の状況：社会新報の取材あり（9 月 17 日付け記事）
    - ②委員会等の審議活動（意思の表出を含む。）への反映：東日本大震災復興支援委員会産業振興・就業支援分科会の提言活動などに反映される。
    - ③共同主催団体等における事後の取組：研究会における成果の共有などが行われる。
- ※『学術の動向』への特集記事掲載を希望します（依頼打診済）